

# エルサレムの かなしみ

1 か  
哀歌1:1~8 ああ、人の群がっていたこの町は、ひとり寂しくすわっている。国々の中で大いなる者であったのに、やもめのようになった。諸州のうちの女王は、苦役に服した。彼女は泣きながら夜を過ごし、涙は頬を伝っている。彼女の愛する者は、だれも慰めてくれない。その友もみな彼女を裏切り、彼女の敵となってしまった。(1~2)

## 1. イスラエルの最大の問題は何だったのでしょうか

- 1) 重要な一つを知らない宗教団体でした
- 2) 最も問題になることを知らない律法団体でした
- 3) 災いを防ぐことができない伝統と制度にこだわりました

## 2. 根本を逃したためです

- 1) すべての国々の中で大いなる者が労働者になりました (哀歌1:1)
- 2) 友人が敵になりました (哀歌1:2)
- 3) 祭司、長老たちは、食物を捜していたのですが町の中で息絶えました (哀歌1:19)

## 3. 回復の時刻表を持たなければなりません

- 1) 根本とは、神様が与えられた契約です (イエス・キリスト)
- 2) 回復とは、神様が与えられた力です (神の国)
- 3) 挑戦とは、神様が与えられた使命です (ただ証人)

タイトル:

せいしよかしよ:

メッセージ:

いのりの かだい (じっせんする こと):

# 2 か

## かみさまの いかり

哀歌2:1~7 主は、敵のようになって、イスラエルを滅ぼし、そのすべての宮殿を滅ぼし、その要塞を荒れすたらせて、ユダの娘の中にもめきと嘆きをふやされた。主は、畑の仮小屋のように、ご自分の幕屋を投げ捨てて、例祭の場所を荒れすたさせた。主はシオンでの例祭と安息日とを忘れさせ、激しい憤りで、主と祭司を退けられた。主は、その祭壇を拒み、聖所を汚し、その宮殿の城壁を敵の手に渡された。すると、例祭の日のように、彼らは、主の宮でほえたけった。(5~7)

### 1. 神様がイスラエルに怒られた3つの理由があります

- 1) 主は「イスラエルの主」であるということです
- 2) メシヤは他の国を破壊して勝利した救い主であると主張しました
- 3) イスラエルは選民、他の国は異邦人であると言いました

### 2. 外部の侵略を防ぐことができませんでした

- 1) 王宮と城を崩しました (哀歌2:5)
- 2) 王と祭司を軽蔑しました (哀歌2:6)
- 3) 主の神殿が敵の手に渡されました (哀歌2:7)

### 3. 正しい力を育てなかった結果です

- 1) 他のことをしました
- 2) 価値のないことをしました
- 3) 間違ったことをしました

いのりの かだい (じっせんする こと):

# くいあらためと きぼう

哀歌3:1~5 私<sup>わたし</sup>は主<sup>しゅ</sup>の激<sup>ほげ</sup>しい怒<sup>いか</sup>りのむち<sup>う</sup>を受けて悩<sup>なや</sup>みに会<sup>あ</sup>った者<sup>もの</sup>。主<sup>しゅ</sup>は私<sup>わたし</sup>を連れ去<sup>つ</sup>って、光<sup>ひかり</sup>のないやみ<sup>あゆ</sup>を歩<sup>あゆ</sup>ませ、御手<sup>みて</sup>をもって一日中<sup>いちにちじゅう</sup>、くり返<sup>かえ</sup>して私<sup>わたし</sup>を攻<sup>せ</sup>めた。主<sup>しゅ</sup>は私<sup>わたし</sup>の肉<sup>にく</sup>と皮<sup>かわ</sup>とをすり減<sup>へ</sup>らし、骨<sup>ほね</sup>を砕<sup>くだ</sup>き、苦味<sup>にがみ</sup>と苦難<sup>くなん</sup>で私<sup>わたし</sup>を取り困<sup>こ</sup>んだ。

## 3か

### 1. 救<sup>すく</sup>い観<sup>かん</sup>について話<sup>はな</sup>してみましよう

- 1) 信<sup>しん</sup>仰<sup>こう</sup>によって救<sup>すく</sup>われると主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>します
- 2) 行<sup>おこな</sup>いによって救<sup>すく</sup>われると主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>します
- 3) 霊<sup>れい</sup>的<sup>てき</sup>体<sup>たい</sup>験<sup>けん</sup>で救<sup>すく</sup>われると主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>します

### 2. 福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>を離<sup>はな</sup>れた者<sup>もの</sup>の結果<sup>けっか</sup>でした

- 1) 肉<sup>にく</sup>、皮<sup>かわ</sup>、骨<sup>ほね</sup>が砕<sup>くだ</sup>れました (哀歌3:4)
- 2) ずっと前<sup>まえ</sup>に死<sup>し</sup>んだ者<sup>もの</sup>のようでした (哀歌3:6)
- 3) 一日中<sup>いちにちじゅう</sup>あざけりの歌<sup>うた</sup>となりました (哀歌3:14)

### 3. 神<sup>かみ</sup>の子<sup>こ</sup>どもであるRemnantは、3つ<sup>ただ</sup>を正<sup>ただ</sup>しく理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しなければなりません

- 1) 福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>を正<sup>ただ</sup>しく理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しなければなりません
- 2) 祈<sup>いの</sup>りを正<sup>ただ</sup>しく理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しなければなりません
- 3) 伝<sup>でん</sup>道<sup>どう</sup>を正<sup>ただ</sup>しく理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しなければなりません

✿ タイトル:

✿ せいしよかしよ:

✿ メッセージ:

✿ いのりの かだい  
(じっせんする こと):



# レムナントの くるしみ

哀歌4:1~5 ああ、金は曇り、美しい黄金は色を変え、聖なる石は、あらゆる道ばたに投げ出されている。純金で値踏みされる高価なシオンの子らは、ああ、陶器師の手で作られた土のつぼのようにみなされている。ジャッカルさえも乳房をあらわし、その子に乳を飲ませるのに、私の民の娘は、荒野のだちょうのように無慈悲になった。乳飲み子の舌は渴いて上あごにつき、幼子たちがパンを求めても、それを裂いて彼らにやる者もない。ごちそうを食べていた者はみちばたでしおれ、紅の衣で育てられた者は、堆肥をかき集めるようになった。

## 4か

### 1. 聖書に登場する重要な単語があります (Remnant)

- 1) 旅人
- 2) 散らされた者
- 3) 隠された者
- 4) 残りの者

### 2. 準備をしなかったイスラエルの結果があります

- 1) 金が光を失いました (哀歌4:1)
- 2) 宝が土器のようにみなされました (哀歌4:2)
- 3) 乳飲み子の舌は渴いて上あごにつきました (哀歌4:5)

### 3. Remnant運動はすべての問題の解決策です

- 1) 教会が起きなければなりません
- 2) 既成世代が覚醒しなければなりません
- 3) 今はRemnantが自ら起きなければなりません

タイトル: \_\_\_\_\_

せいしよかしよ: \_\_\_\_\_

メッセージ: \_\_\_\_\_

いのりの かだい (じっせんする こと): \_\_\_\_\_